

第21回 欧州モビリティ・マネジメント会議

21th ECOMM 2017 (European Conference on Mobility Management)

井村祥太郎¹ 森尾 淳²

By Shotaro IMURA and Jun MORIO

1 はじめに

ECOMM (European Conference on Mobility Management) は、毎年5月に開催されている。第21回 ECOMM は、2017年5月31日～6月2日にオランダ・マーストリヒトにおいて開催された。本稿では、ECOMMの概要を紹介する。

2 欧州のMMの取組動向：
(EPOMMとECOMM)

(1) MMのプラットフォーム:EPOMM

欧州モビリティ・マネジメント・プラットフォーム (EPOMM: European Platform on Mobility Management) は、モビリティマネジメント (MM) に携わっている欧州諸国の政府ネットワークであり、ベルギーのルーヴェンに拠点を置く国際的な非営利団体である。EPOMMに加盟している国として、オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデンおよび英国の12ヶ国があり、他の欧州諸国と共に活動している。

EPOMMでは、各加盟国の交通手段の分担率の都市間比較を実施するツールであるTEMS (The EPOMM Modal Split Tool) やMM実施効果を地域間比較するツールであるMAXEva等をオンライン上で公開している。

また、各加盟国では、NFP (National Focal Points) と呼ばれる、MMにおける相談窓口となる組織を設置している。NFPは、MMの取り組みの事例収集やWSの開催、関係機関との情報共有等を行い、NFP間や、EPOMMとNFPで定期的な交流 (毎月の連絡、年2回のテーマワークショップ、毎年開催するECOMM) を行っており、加盟国の取組サポートや情報の共有・交換を通して、MMの取組の質の向上を目指している。

(2) MMに関する会議:ECOMM

ECOMMは欧州において、実務者および専門家の為のMMの情報交換を行う為の会場場所として、1997年以来、毎年開催され、EPOMMの重要な活動の一つである。ECOMMは、欧州を中心に350～500名程度が参加する会議であり、基調講演やプレゼンテーション、ポスターやMMに関わるブースの設置、ワークショップやエクスカージョン等の様々なプログラムが組まれている。

3 第21回 ECOMM (マーストリヒト)

(1) 概要

第21回 ECOMMは、「住みやすい街づくりのためにチームを結成して団結する (Teaming-up for liveable cities)」をメインテーマに開催され、知識の共有と更なる活動を促進するために、5つのテーマが設定された。

- ・低炭素交通 (CO₂ neutral transport)
- ・官民パートナーシップ
(public-private partnership)
- ・複数の目標を達成する為に必要な解決法
(integral solutions serving multiple goals)
- ・国境を越えた協力 (cross-border cooperation)
- ・ユーザー視点 (user perspectives)



写真-1 第21回 ECOMM開会のあいさつ

¹交通・社会経済部門 研究員 ²都市地域・環境部門 グループマネジャー 博士 (工学)

(2) 特徴的なトピック

第21回ECOMMでは、約90程度の口頭発表が、パワーポイント形式で行われた。また大ホールにおいては、基調講演やフロアを交えたディスカッション形式での議論が行われた。

a) Pressure Cooker Session

Pressure Cooker Sessionでは、ECOMMに参加している大学の学生により、ローマ、カッセル、グローニンゲン、リンブルグ等の都市における、様々な交通問題への解決策を、賛成と反対のグループに分かれて短時間での議論を行う形で実施された。議論は10分程度の短時間で行われ、議論の最中に突然賛成派と反対派の立場が変わるシーンもあり、臨機応変な対応が求められる等、印象的なセッションであった。

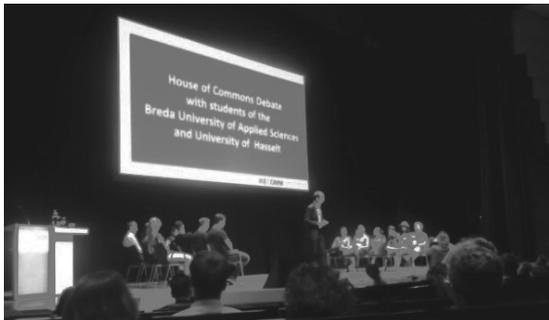


写真-2 Pressure Cooker Sessionの様子

b) 基調講演

国際的なベストセラー「The World Book of Happiness」の著者である、Leo Bormans氏による幸福とモビリティに関する基調講演が行われた。「望遠鏡で焦点をあてる」ことを例に、悲観主義者は問題に焦点を当て、恐怖によって行動に至らない、一方で楽観主義者は機会と解決策に焦点を当て、障害物に対処する方法を探して動くべきであると述べ、「あなたの人生の旅路が、良い望遠鏡となるように願っている」と話した。



写真-3 Leo Bormans氏の基調講演の様子

c) スマートフォンを用いたパネルディスカッション

大ホールで実施されたパネルディスカッションでは、会場内にいる聴講者にスマートフォンを用いたアンケートをリアルタイムで実施し、その回答結果をもとに議論を進める形式で実施された。意見については、パネリストだけでなく、実際に回答した人からも聞く等、モビリティに関する活発な議論が行われた。

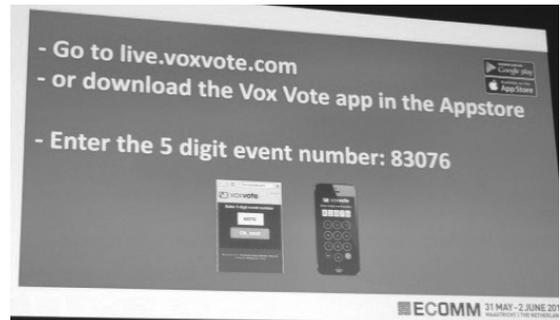


写真-4 スマートフォンを用いたアンケートの案内

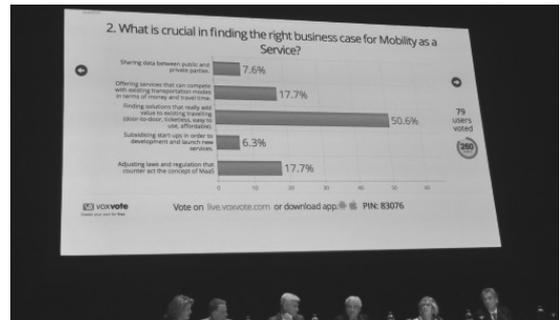


写真-5 スマートフォンを用いたアンケート回答結果

4 おわりに

日本においては、一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM: Japanese Conference On Mobility Management) が国内の様々なモビリティ・マネジメントの取組事例を発表・情報交換する場として開催されてきており、2018年7月末に豊田市において第13回目を迎える。当研究所は法人会員として参画している。欧州の取組や活動事例に倣い、我が国のMMの発展に協力して参りたい。

参考文献

- 1) EPOMM, <http://epomm.eu/newsletter/v2/eupdate.php?nl=0617&lan=en>
- 2) ECOMM, <http://www.epomm.eu/ecomm2017/>